

TOHATSU

PARTNER

2018年1月1日発行 / 新年号

VOL.103



Photo:セーリングワールドカップ(愛知県蒲郡市)

CONTENTS

- | | | | |
|--------------------------|----|------------------------------|-----|
| ●年頭ご挨拶 | P2 | ●総務省消防庁消防団向け貸与車両の納入 | P6 |
| ●消防庁長官表彰受賞式 | P3 | ●消防団オフロードバイク配備 | P6 |
| ●秋期総会(中央、東北、中部) | P3 | ●松阪地区広域消防組合消防本部ミニバッテリー式救急車納入 | P6 |
| ●駒ヶ根ハーフマラソン2連覇達成 | P3 | ●世田谷区に地震体験車を納入 | P6 |
| ●新浜寺マリナーリトルボート販売試乗会開催 | P4 | ●東京消防庁クイックシールド・α納入 | P6 |
| ●セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会 | P4 | ●北海道消防操法訓練大会トーハツ上位独占! | P7 |
| ●みなと塩竈・ゆめ博『塩竈港ボート天国2017』 | P5 | ●駒ヶ根市天竜川1,000m送水試験 | P7 |
| ●東京都モーターボート連盟サーキットレース開催 | P5 | ●トーハツポンプ会技術講習会(関西・九州・山口) | P7 |
| ●(有)ボートの新福商会展示会開催 | P5 | ●危機管理産業展2017開催 | P7 |
| ●駒ヶ根にてF15-20量産記念式典開催 | P5 | ●TACが被災地にて救援・救護活動 | 裏表紙 |

平成30年 年頭ご挨拶



トーハツ株式会社
代表取締役社長 日向 勇美

平成30年の輝かしい新年を迎え、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

日頃より御支援を賜っております多くの皆様に心から感謝申し上げます。

さて、皆様の御支援の下、お陰様で昨年、弊社は会社設立85周年、又創業95周年を無事迎えることが出来ました。これもひとえに弊社製品を御愛顧頂いておりますお客様をはじめ、各方面のお取引先各位の絶大な御支援の賜物であり、心から厚く御礼申し上げます。次の節目となります創業100周年に向け、弊社が更に飛躍を遂げるため、これからもトーハツグループの総力を結集し、様々な取り組みを推進して参ります。

弊社の新たな取り組みの一つとして、昨年、マリン事業では、「Tohatsu Blue Wings (トーハツブルーウイングス)」と呼ぶ新しいロゴマークを制定致しました。このロゴマークは世界中の海を駆け巡るミサゴをイメージしてデザインされております。海をモチーフにしたサークルから飛び出す海鷹の両翼は常識にとらわれず行動するトーハツのチャレンジ精神を表しております。本年度より、船外機のデカール・デザインをはじめ、ホームページ、各種マニュアル類やユニフォーム等々、弊社マリン事業関係は新しいロゴマークへ順次切り替えを進めて参ります。

新しいロゴマークと共に、マリン事業ではタグラインを「Feel the Wind (風を感じる)」へ一新致しました。この言葉には、「ボートをもっと素敵に楽しむために、風は生命を運ぶ。ときに世界を変える。Tohatsu Blue Wingsの羽ばたきが生むエキサイティングな風を世界中の人に感じて欲しい。ボートをもっと素敵に楽しむために!」という意味を込めております。船外機をはじめとした弊社マリン製品を通じ、マリンレジャーの発展と豊かな社会作りに少しでもお役に立てれば幸いです。そして、今後も皆様の期待にお応え出来る企業を目指し邁進して参ります。

最後になりますが、本年も弊社への変わらぬ御支援、御鞭撻を御願い申し上げますと共に、皆様の御健勝と御発展を祈念致しまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



消防庁長官表彰受賞式

さわやかな秋晴れの中、11月2日(木)に、平成29年度消防庁長官表彰授賞式が明治記念館において、消防庁長官の稲山博司氏をお迎えし、盛大に開催されました。

当社からは、日本消防ポンプ協会、並びに全国消防機器協会からの強い推薦により、防災九州地区担当の荒田修氏がこの栄誉ある賞を受賞されました。同氏は長年に渡り、当社の可搬式消防ポンプの国内普及に大きく貢献し、また市場からの要望を積極的に製品に取り込む為に尽力されており、その絶え間ない努力が今回の受賞の栄誉に至ったものと考えます。

この度の受賞、誠にありがとうございます。

(防災営業部/真田)



(写真中央 荒田氏)

トーハツポンプ秋期総会

トーハツポンプ中央会

トーハツポンプ中央会では、去る11月7日(火)に東京にあるチサンホテル浜松町にて平成29年度秋期総会を開催しました。

第一部では事務局より今年度の事業報告や来年度の計画案の提示、また各会員様よりトーハツに対する熱い要望をいただきました。第二部では冒頭トーハツ(株)代表取締役社長日向よりご挨拶をいただき、その後近況報告、また第一部で上がった要望について議論をさせていただき、活発な意見交換ができました。

会員の皆様は翌日から、香港・マカオへ海外視察旅行に向かわれました。お忙しい中ご参集くださいました会員の皆様には改めて御礼申し上げます。大変お疲れ様でした。(防災中央/桑澤)



東北トーハツポンプ会

平成29年度東北トーハツポンプ会秋期総会が去る10月17日(火)~18日(水)の2日間にわたり仙台市内のホテル佐勤で盛大に開催されました。

総会では高橋会長様のご挨拶を頂き、同年8月に実施したトーハツポンプ技術講習会の成果について説明され、今後のサービス向上の為、継続開催を宣言されました。

また、トーハツ(株)代表取締役社長日向より日頃の代理店様の販売努力に対する感謝の言葉と消防市場の状況を説明されました。

質疑応答では、新開発消防ポンプの開発を早急に実現してほしいという要望が多数ありました。懇親会では、和やかムードで歓談し親交を深めました。皆様には遠路ご出席を賜り誠にありがとうございました。(防災東北/田中)



中部トーハツポンプ会 in 台湾

中部トーハツポンプ会総会が11月11日(土)~13日(月)の3日間、台湾にて開催されました。現地では、台湾で最も尊敬される日本人「八田與一」記念公園や飛虎將軍廟などを視察。先人の台湾での偉業に触れることができ、日本人としての誇りを再確認することができました。

また親睦会では本場飲茶を囲みながら、終始和やかな雰囲気で見聞交換ができ非常に貴重な時間を過ごすことができました。

会員の皆様には遠路ご出席賜り誠にありがとうございました。

(防災中部/山口)



高梨良介さん駒ヶ根ハーフマラソン2連覇達成

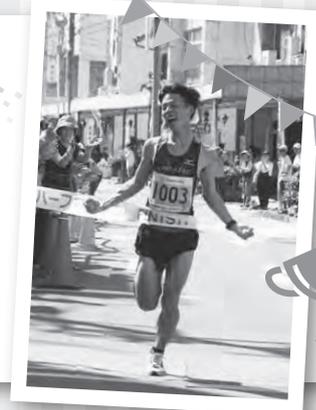
今年で第5回目をむかえる駒ヶ根ハーフマラソンが9月24日(日)に開催され、トーハツ陸上部所属の高梨良介さん(TMC製造第二課)がハーフマラソン総合の部で見事2連覇を達成しました。

レースは昨年同様、前半からハイペースで飛ばして後続を引き離す得意の展開に持ち込み、最後は2位に2分22秒引き離し圧勝しました。

相次ぐケガや大会直前の発熱があり、万全ではない中でむかえたレースではありましたが、2連覇するという強い気持ちで挑み、不安をものもしない見事な走りでした。

今後は、県外レースへの積極的参加を目標にされていくとのこと。今後も高梨選手の活躍に期待していきたいと思います。

(トーハツマリン/池上)



新浜寺マリーナにてリトルボート販売試乗会開催



まだ残暑が残る大阪湾には秋風が涼しくなる雰囲気は見当たりません。

今秋9月2日(土)～3日(日)、リトルボート販売様(大阪府堺市)の試乗会が堺市の新浜寺マリーナにて開催されました。天候も快晴と曇り空で、多くの来場者を期待していましたが、例年並みでした。

毎回、ひとつは新しい商品の紹介があり、来場者も楽しみに試乗会に来られていますが、今回はリトルボートの販売機種で、一人乗りボートに左右にフロートを付けた組立型のボートが有ります。その先端(バウ部分)を製作して、波きりがシャープに出来る様に開発したシャークヘッド。FRP製で安定感も良く、デザインも目と口を付ければ映画「ジョーズ」に出てくる鯨の様な頭に変身する感じですね。

2馬力を搭載して試験を行っています。まだ改良の余地あり。益々進化して近日中にお披露目できると信じております(次回完成しましたらご案内します)。

田原社長はとてもアイデアが豊富な持ち主であり、お客様目線の商品を商売に結び付ける才能はピカイチですね。弊社も頼り入れる様に、頑張らないといけません。

もう一つの新商品は弊社の新型15/20馬力インジェクション船外機 MFS15ES&MFS20ELの2機種が穏やかに登場。始動性の良さや低燃費、ハンドル振動の軽減など{MFS20D(キャブ仕様)}の、より進んだ技術を搭載してアキレスゴムボートやFRP艇の「弁慶」に搭載し、まだ水温の温かい大阪湾の海水を爽快に疾走する姿(疾走する弁慶とMFS20ELの写真をご覧ください。)は、依然2ストロークで活躍した鳥の名前が付いた、シーホークやシースワローの再来ともいえるような操縦性や柔軟性が魅力的です。

なんといっても新型インジェクションエンジンはこのクラス最軽量に造られて、余分な肉をそぎ落とし、新たに筋肉が増えたように感じさせるパワーは獲物を追い詰める隼にも思えます。リトルボート販売のブログでも宣伝して頂いた効果があり、来場者の中にも試乗目的で来て、インジェクションの始動性には納得していたお客様が見受けられ、今後の冒険隊への期待が感じられます。

今後はロゴマークも変わり、新たなデカルで登場出来る事で、より海鷹(シーホーク)に近づき、海面を疾走するツバメ(シースワロー)の様な軽快な印象を期待しております。又、来年の早春に行われる試乗会にも新しい商品がお見せできれば幸いです。

(西日本販売課/中野)



セーリングワールドカップ 愛知・蒲郡大会



オリンピックを目指す世界ランキングトップセーラーたちが競い合うセーリングワールドカップが、10月15日(日)より22日(日)までの期間にわたり、愛知県蒲郡市の豊田自動車機 海陽ヨットハーバーにて開催されました。

愛知・蒲郡大会は、日本初開催となるワールドカップシリーズで、39カ国・地域の280名以上の選手が参加しました。本大会は、ワールドセーリング(セーリング競技の国際組織)が主催するシリーズレースで、2018年シリーズの初戦にあたります。その後、マイアミ、フランスと続き、2018年夏には、ヨーロッパで決勝戦が行われます。2020年に開催される東京オリンピックの会場となる江の島では、2018年以降の開催が決まっています。

今大会における種目は、470級男女・レーザ級・レーザラジアル級・49er級・49erFX級・RS:X級男女の8種目で、海上に設置されたマークを周回して、フィニッシュする順位を競い合います。風の強弱や

波の有無、コース上の有利不利の選択、相手選手との駆け引きがセーリング競技の醍醐味となっています。

今回、トーハツは、18FTから22FTのBWA RIBボート4艇に50馬力から150馬力のトーハツ船外機を搭載しサポート艇として提供しました。レースのマーシャル艇として、また、マスメディアを乗せるメディア艇として多岐にわたり使用されました。マーシャル艇は、レース海面にて、風向きや風の強さを計測し、コースを設定します。刻々と変わる気象条件に対応するため、レース中のコース変更に対応する素早さと正確さも求められます。

一方、メディア艇は、スタート・マークでのターン・フィニッシュと海上コースのぎりぎりまで近づき、迫力ある様子を撮影します。激しい選手同士の駆け引きの中、風向きによる通過コースを推測し、艇の進路を妨げないようなポイントを判断し待ち受けます。そのためメディア艇では、機材や撮影関係者を乗せる積載性、撮影時の安定性、海面上の素早い移動、そしてポイントでの微調整やレースの妨げになる引き波を立てない走破性などが求められます。今回、使用機材としてBWA RIBボート各艇の特徴をいかした配置となりました。

56年ぶりの開催となる2020年東京オリンピックも3年後に近づいてきました。ワールドカップでは、注目の日本選手も世界の強豪を抑え上位入賞を目指し健闘しています。セーリング競技の活気の盛り上がり、セーラーたちの今後のますますの活躍を応援しています。

(マリン課/大坪)



みなと塩竈・ゆめ博『塩竈港ポート天国2017』

みなと塩竈・ゆめ博『塩竈港ポート天国2017』が、10月29(日)～30日(月)に東北事業協会の主催で、試乗展示会が塩釜のマリンゲート横で行われました。今回、初の試みでみなと塩竈・ゆめ博というイベントとコラボする形で行われました。当社は、試乗艇としてTFW-25R+BFT90A, 展示艇TFW-17R+MFS50A, 船外機MFS20EEFLを出品しました。

初日は、多少風がりましたが、天候も良く、来場者666名、試乗者69組144名と大盛況であり、非常に盛り上がりました。翌日は、雨の中予定通り開催されましたが、台風接近に伴う悪天候の為14時で途中終了となってしまいました。悪天候の雨にもかかわらず、来場者216名、試乗30組51名あり、天候さえよければ大盛況であったであろうと思ひ残念な気持ちになりました。

主催者側は、来年も継続し、東北の販売の活性化と底辺の拡大をめざして、東北のポートショーになるよう目指していくとのことでした。

(東日本販売課/木村)



東京都モーターボート連盟サーキットレース開催

8月27日(日)に、東京都モーターボート連盟シリーズ2017第2戦サーキットレースRound1が、茨城県神栖市のMGマリン鹿島前の常陸利根川ゲレンデで開催されました。

今回のレースには排気量400ccのOSY400から2,400～2,500ccのF3000まで6クラス27艇がエントリーし、トーハツ船外機はF550クラスにMD50が2艇、M40が3艇の計5艇、V850クラスにはMFS50が1艇の合計6艇がエントリーして、各クラスが第3ヒートを激化する熱い戦いが繰り広げられました。

常陸利根川で開催されるこのレースは、競走開始地点に静止してスタートの合図とともに一斉にエンジンを始動してスタートするジェットスタートではなく、ヨットレースや競艇競技で採用されているフライングスタート方式で行われます。競走開始時刻前から助走を行い、スタート基準となるスタートラインにタイミングを合わせ一斉に通過するフライングスタートはビデオ判定されており、0.1秒でもタイミングが早ければフライングとなり、そのヒートは0点となってしまいますので、スタートのタイミングを見極めるために、選手は前日からスタート練習を何度も行います。

今回、F550クラスのトーハツ船外機搭載艇は2位入賞と残念ながら1位は逃しましたが、V850クラスでは、MFS50Aを搭載して大貫仲江選手がこのクラスに初参戦。飯野選手ら競合ライバルのDo not startはあったものの、見事初陣を飾り総合1位の表彰台に上げられました。

次回開催される都連シリーズ最終戦となるRound2でも大貫選手の更なるご活躍をお祈り致します。

(マリン課/坂井)



(有)ボートの新福商会展示会開催

去る平成29年10月21日(土)～22日(日)、鹿児島県垂水市の(有)ボートの新福商会様にて2年ぶりの各メーカー協賛のもと展示会が開催されました。

ボートTFW-17Rに船外機MFS30Cを搭載し低価格帯にて気軽に乗れるボートを展示。また、新モデル船外機MFS20Eも展示しました。

台風接近のなか、初日はなんとか天候ももちまますの集客がありました。しかし、2日目は台風直撃により中止も検討しましたが、お客様からどうしても来場し商品を見たいとの問い合わせがありテントは撤収し決行を新福社長が決断。2日目は客足が少なかつたもののTFW-17Rの購入を検討していても説明を聞きたいという宮崎県からはるばるお客様が来場されるなど内容の濃い展示会となりました。

(西日本販売課/小畑)

F15-20量産記念式典が開催されました

7月13日(木)駒ヶ根にてF15-20の量産記念式典が開催され、トーハツマリン(株)及びトーハツディストリビューションセンターの全従業員が参加しました。

ご来賓では、トーハツ(株)代表取締役社長 日向・マーキュリーのジョン・ファイファー社長を始めトーハツ・マーキュリーの役員の方々のご出席されて、式典が行われました。

式典では、トーハツマリン(株)代表取締役社長 工藤のご挨拶、ご来賓から日向社長、ジョン・ファイファー社長からのご挨拶を頂き、最後に参加者全員の記念写真を撮り大変貴重な催しとなりました。

(トーハツマリン/池上)



納入・配備しました



総務省消防庁消防団向け 貸与車両の納入 平成28年度分(補正)・平成29年度県消防学校貸与品の納入始まる!!

総務省消防庁では国内で多発する災害に合わせて全国の消防団向けに可搬消防ポンプ・救助資機材を搭載した車両を逐、配備しております。今回の配備は28年度補正事業の一環であります。車両にはワイヤレスマイク音響設備を搭載しており、訓練会場や式典などにも使える仕様になっております。

主な仕様・機材

車体・シャシ いすゞエルフWキャブ ディーゼルエンジン4WD
MT or AT 定員6名

主な搭載品

可搬消防ポンプ トーハツVF63AS (B2級) or VF53AS (B3級)
消防資機材 消防ホース×10、管槍×2、吸水管75mm×6 m×1、
ガンタイプノズル、
救助資機材 AED×1、布担架×1、電動マルチコンビツール×1、
エンジンカッター×1、チェーンソー×1、
LED投光器・三脚・発電機等



転倒角度検査風景



救助資機材搭載型車両



可搬消防ポンプ放水試験(納入時)



軽搬送車

消防団 オフロードバイク 配備

災害発生後の現場に移動する手段としてバイクを活用する為の訓練車両として全国の消防学校16ヶ所に配備する事となりました。

移動手段としての役割と災害時の情報収集用車両としての役割を担う事から各県の消防学校へ配備し消防団の訓練に使用するためのバイクです。

構成品

オフロードバイク×2、ヘルメット×2、プロテクター×2、
自動充電器×2、燃料携行缶10リットル×2

訓練用機材

一本橋15m×1、波状路9本組×1



消防団オフロードバイク教習(実技)



座学
(全国のバイク活用事例紹介DVD)



付属品
(消防車両課/志津川)

松阪地区広域消防組合消防本部 ミニバッテリー式救急車納入

去る10月18日(水)に松阪市消防本部へミニバッテリー式救急車を納入しました。小さな子供でも簡単に運転ができ、走行中にはサイレンが点灯したり走行音も搭載しています。これから様々なイベントで活躍が期待されます。またこれを機により一層親しみやすい消防署になることでしょう。

最後に販売及び納入にご尽力頂きました三重保安商事(株)様に厚くお礼申し上げます。
(防災中部/山口)



世田谷区に地震体験車を納入

秋も一段と深まり寒さも次第につる10月下旬、東京都最大の人口を有する行政区である世田谷区に、地震体験車「なまず号」を納入させていただきました。震度2から7までの震度階別地震の他、大正時代に発生した関東大震災から、記憶に新しい熊本地震まで9種類の再現地震メニューや南海トラフ地震などの想定地震メニューを搭載し、近年の訪日外国人増加に伴い必要とされる多言語にも対応。様々な状況に応じて多岐に渡る体験訓練が行える仕様となっております。

豪徳寺防災施設での納入式および区役所職員様向けのデモンストレーションでは、職員の皆様から震動のリアルさに感嘆の声があがりました。保育園や小学校での防災訓練が多いとい

うことで、地震体験という恐怖におののき子供達にも親しみを持ってもらえるような可愛いデザインが大変好評でした。この地震体験車が世田谷区民の皆様の防災意識向上の一助となれば幸いです。

今回の納入に際しご尽力頂いた東京物産(株)様に厚く御礼申し上げます。
(防災中央/菅)



東京消防庁 クイックシールド・αを105本納入

酷暑きわまる8月17日(木)、東京消防庁向けクイックシールド・αの納入前検査が行われました。105本のクイックシールド・αで検査場が埋め尽くされる中、東京消防庁関係者と外観検査や名入れの確認を実施。無事検査を終え、東京都内80か所の消防署へ配備されました。

この度ご採用いただきました東京消防庁様、並びに納入に際しご尽力頂いた東京物産(株)様に厚く御礼申し上げます。
(防災中央/菅)



平成29年度北海道消防操法訓練大会 ト一ハツ上位独占!



(防災北海道/菅)

7月14日(金)、江別市の北海道消防学校にて北海道消防操法訓練大会が開催されました。出場された消防団の皆様は訓練の成果を如何なく発揮し、優勝された上士幌消防団から優良賞まで上位すべてト一ハツポンプで独占することができました。また、VC72PROⅢ Limitedでの出場隊も多く、性能をアピールする絶好の機会となりました。この結果も日頃より営業活動にご尽力いただいております(株)北海道モリタ様の努力の賜物と深く感謝いたします。出場選手および大会関係者の皆様、大変お疲れ様でした。

駒ヶ根市天竜川 1,000m 送水試験



去る7月19日(水)、真夏の強い日差しが降り注ぐ中、弊社可搬消防ポンプ及び船外機の製造工場がある長野県駒ヶ根市。その市のほぼ真ん中を南北に流れる天竜川の河川敷で、ト一ハツ可搬消防ポンプVF63ASの1,000m送水試験が行われました。今回B2級可搬消防ポンプの性能を改めて実証する為の試験として、消防ホース50本(20m×50=1,000m)を連結、延長して一線放水をすると言う、非常にスケールの大きい試験を行うこととなり、述べ30名近い方のご協力をいただき中で試験が行われました。晴天の中での作業、ポンプの設営からホース50本の展開、放水銃の設置など初めての事が多く非常に苦勞をしましたが、無事設営が完了しいざ放水試験へ。VF63AS(B2級)においてはポンプ本体圧1.1MPaで送水、1,000m先で筒先圧力:0.2MPa、放水量:390L/minという結果となり、B2級可搬ポンプでも1,000m先で消火に有効な放水ができることが分かりました。

今回撮影に当たりご理解とご協力をいただきました、駒ヶ根市様、天竜川河川事務所様には厚く御礼申し上げます。また撮影に際しご協力をいただきました各関係者様にも、あわせて御礼申し上げます。今回の送水試験映像は弊社ホームページ[<http://www.tohatsu.co.jp/>]にも掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

(防災中央/桑澤)

技術講習会 開催



●関西ト一ハツポンプ会

平成29年度関西ト一ハツポンプ会主催の技術講習会を開催致しました。8月2日(水)に大阪会場のOMMビル会議室、翌日の8月3日(木)は四国会場の徳島JA会館の会議室にて行い、参加人数は昨年よりも増えて両会場合わせて39名に出席頂きました。

講習会ではVF用エンジンの分解と組立てを行い、また講習会に合わせて技術委員の意見交換会も行われ、各販売店の技術委員担当者間で日ごろの疑問点や改善点について積極的な意見が交わされました。技術講習会の場で修理技術の習得だけでなく、意見交換の機会もあり製品知識等も深める貴重な時間となりました。

ご多忙の中、また遠方まで参加頂きまして有難うございました。

(防災関西/田村)



●九州・山口ト一ハツポンプ会

「平成29年度九州・山口ト一ハツポンプ技術講習会」が11月10日(金)に福岡にて開催されました。6社の販売店から10名の方が講習会に参加行われました。

研修会は、よりポンプに深く接していただき理解を更に深めていただく為、3~4名の小グループに分けてグループリーダーを決めて行いました。各グループにおきましては全員が真剣に取り組んでおり、有意義な研修であったものと思われま。

その中で、年輩の方が他の研修生に対し真剣に教えている姿がとても印象的でした。実際に行った修理内容、苦勞したことなど、色々な事を話しながら行えたので、よい情報の交換が出来たと思います。

この度は研修会にご参加頂きました販売店の皆様、ならびに各関係部署の方々のご協力をいただき誠にありがとうございました。重ねて誌上より厚く御礼申し上げます。

また、今回参加していただいた研修生のみなさん、大変お疲れ様でした。九州・山口ト一ハツポンプ会の澤田会長様も終日参加して頂き体験話を頂きましてありがとうございました。

(防災九州/荒田)



危機管理産業展 2017

2017年10月11日(水)~13日(金)まで東京ビッグサイトにて危機管理産業展が開催され、ト一ハツ株式会社も出展致しました。のべ来場者数は昨年の59,780人を大きく上回る72,402人となり地震などの自然災害に加え、ミサイルなどの様々なリスクに対する世間、企業、行政の関心がうかがえました。

ト一ハツは、先に発生した糸魚川大火を受けて「中継送水」をテーマに展示を行ない、合わせて昨年に引き続き「新運転免許対応消防積載車」の展示も行ないました。

ブースでは7月に長野県駒ヶ根市天竜川にてVF63ASを使用して行った1km送水実験、中継送水要領の動画を放映しました。実機と動画があった為、御客様にもわかりやすいブースになっておりました。

期間中は販売店様並びに御関係者が数多く御来場頂きました事を誌上にて厚く御礼申し上げます。



(防災中央/佐藤)

Tohatsu America Corporation (TAC) が 被災地にて救援・救護活動



米国のボートینگ・シーズンが盛り上がる8月にハリケーン・ハービーがテキサス州を襲いました。ハリケーン・ハービーはテキサス州南東部に大規模な洪水災害をもたらし、その洪水面積は25,000平方キロメートルと、“1,000年に一度”の規模とも言われました。

そこに一瞬の迷いも見せず飛び込む者がいました。Tohatsu America Corporation (通称TAC*)のナショナル・サービスマネジャーであるジョン・マイケル氏は、被災地の雲行きが悪くなった当日に船外機、ボート、ガス、飲料水等、必要と思われるものを直ちにかき集め、そしてTAC関係者の有志を集め、災害地であるヒューストンへ避難救助そして救援物資の配布の為、ボランティアに向

かいました。

“ニュースで確認していたが、実際に見る被害は想像以上であり、大型トラックが完全に水没している等、今までに見た事が無い最悪の光景であった。”とジョン氏は云う。ジョン氏一同は計3日間のボランティア活動に当たり、その後TACは\$5,000 (55万円相当)を被災地の再興の為、米国赤十字社に寄付。TAC一同、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

*TACは災害地から約450キロメートル離れているテキサス州ダラスに位置するトーハツ株式会社の販売会社であり、北米・カナダへのディストリビューションを務めています。

(TAC / 佐藤)

発行

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 3-5-4
TEL (03) 3966-3116 / FAX (03) 3966-0090

トーハツ株式会社
トーハツパートナー編集局
編集兼発行責任者 牧 邦治 / 青山 滋